

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム あいじゅ
所在地	松山市東方町甲814-3
自己評価作成日	平成24年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の中に住まいがあり、裏には川が流れ、春には桜が満開に咲きとてもいい環境の中にあります。午前中は少しでも自立支援に向け、リハビリ体操・唄・朗読や歩行練習等を行っています。ティタイムには好きな飲み物を飲みながら会話を楽しんでいます。今年、「あなたの夢を叶えます」を目標に掲げ、行ってみたい所、会ってみたい人等家族様に協力をお願いして、一人ひとり実現に向けて取り組んでいます。みなみ保育園との交流も3年が経ち、今では楽しみの一つになっています。その人らしさを大切に、自分に役割をもち、安心して暮らしていただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は緑豊かな環境にあり、玄関前には季節の花が咲き、吹き抜けの玄関ホールは木の香りに包まれ、温かく人を迎え入れてくれる心遣いがなされている。母体法人は多様な福祉事業を実施しており、特別養護老人ホームも隣接し協力体制が整っている。今年度の事業所目標である「あなたの夢を叶えます」のとおり、入居者一人ひとりの思いに寄り添った個別ケアを実践している。利用者はゆったりと穏やかな生活の中にも、自分の役割と目標を持って暮らしている。管理者と職員は何でも話し合える良好な関係が築かれている。職員のチャレンジ精神も旺盛で、新しい取り組みにも柔軟に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいじゅ

(ユニット名) 寿ユニット

記入者(管理者)

氏 名 大栄 幸枝

評価完了日 平成 24年 8月 18日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員同士で話し合い、尊厳・地域交流を目標の中にいれ、少しでも地域の中に溶け込んでいけるよう支援を行っている。 (外部評価) 開設当時に地域とのつながりが困難であった経験をもとに、職員間で話し合い「利用者の尊厳と地域との交流」を目標にしている。共有スペースの目の届く位置に理念を掲示し、利用者が地域の一員として生活できるように、全職員で理念を共有し日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 文化祭・お祭り・みなみ保育園の来訪。敬老会にはみなみ保育園に行ったり、プチ美化運動に参加し、地域の正八幡神社の清掃活動も行っている。地域の方と一緒にカラオケを楽しんだ後、一緒にお誕生会に参加して頂き、話もはずみます。 (外部評価) プチ美化運動として神社の清掃を利用者と共に積み重ね、地域での役割を担っているほか、隣接する同法人の事業所行事への参加等を通して地域と交流している。近くの保育園児の来訪が毎月あり、馴染みの関係が構築され相互に楽しみとなっている。保育園から敬老会の招待を受け参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) みなみ保育園との交流の様子をお話ししたり、介護予防教室に参加して、一人でも多くの人に理解して頂くよう努めている。推進会等でお話をしたり、認知症予防についての勉強会等も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催している近況報告や取り組みのテーマ にそって話し合っている。地域包括支援センター・市 役所・民生委員・地域住民・保育園園長・在宅介護支 援センターの参加があり、意見やアドバイスが得られ サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 新たに民生委員に運営推進会議への参加を依頼し、多 方面からの参加者で構成できるよう努力している。運 営状況の報告のほか、意見や要望が積極的に出されて おり、同時に講習会を行ったり、講演の場として活用 するなど工夫がある。	参加者や内容等が分かりやすい議事録となるよう工夫 し、全職員で共有してもらいたい。今後も多方面から 参加を得て、内容のマンネリ化防止を図りながら、 サービス向上につながる取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 推進会、事業者担当者会議を活用したり、社会福祉協 議会の方をお願いして、防災について講演をしていた だいたり、指導を受け活用している。	
			(外部評価) 市担当者とは日常的に連絡を密にとっており、気軽に 相談したり情報提供して貰っている。また、運営推進 会議の機会を利用し、利用者や家族、地域との直接的 な交流のほか、防災の講演やサービス内容についての 助言や指導があり、協力関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成し、皆で取り組んでいる。 玄関入り口は日中開放している。玄関ホールは音楽を 聞きながら本を読んだり、お茶を楽しんでいただき出 来だけ出入り口は開放できるよう努めている。見守 りが不十分な時のみ閉めている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて職員一人ひとりが正し く理解し、勉強会や申し送り時には行動抑制等の弊害 についても話し合い、日々の声かけ一つにも注意して いる。玄関は日中開放され、玄関ホールと共用部間に センサーを付けて安全を確保しながら、自由な暮らし を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 推進会の時、包括支援センターの方をお願いして勉強会を実施している。 職員同士、言葉での虐待になってないか、話し合い、注意し合って、良い対応ができるよう努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に成年後見人制度を利用されている人もあるので、包括支援センターの方をお願いして勉強会を開き、それらを少しでも理解・活用できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には契約書・重要事項について十分に説明を行い理解、納得して頂いたうえで契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールには苦情箱を設置している。 苦情が寄せられた場合にはマニュアルに沿って、速やかに対応回答を行っている。法人全体としても要望苦情解決委員会を開催し、頂いた要望苦情が反映できるよう努めている。 面会時などに意見や要望を聞くようにしている。 (外部評価) 毎月の利用料の支払いなどで頻繁に来訪される家族が多く、運営推進会議や家族会など、直接思いを表せる機会がある。また、3か月ごとに家族にお便りを送り、利用者の様子や職員の異動などの情報を伝えている。事業所内外の苦情受付窓口についても、書面などで利用者と家族に説明がされている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 管理者と職員の関係は良好であり、職員会などを通じて意見や提案を気軽に言える雰囲気や機会が大切にされている。行事での車両使用など事業所で解決できない事は管理者から同法人の主任会にあげられ、協力が得られやすい体制が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行い一人一人の個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を増やしている。研修発表の場をつくり、勉強会を開いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区のグループホーム連絡会での勉強会に参加しているが、相互訪問の機会が持てていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階からゆつくりと話し合いができる時間を持ち、徐々に本人の思いや不安を汲み取れるように努めている。 入居後も安心して暮らせるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様との連絡を密にすることにより、家族の思い・不安・要望を聞きだし、それに沿って職員が尊厳を守りながらいい関係が出来るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、家族様の希望を聞き、法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービス選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お料理・工作・行事等について色々助言を頂いたり、一緒に行くことにより、学ぶ事も多く笑顔の絶えない暮らしが送れている。おやつ作りのレシピを家族様に教えて頂き、利用者様と一緒に作り楽しく過ごしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様と一緒に行事やお誕生会に参加できるよう案内状を出したり、面会時に伺うなど工夫している。3ヶ月に1回お手紙を送り、近況報告をしている。(共同作品展・夏祭り等)	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族とのつながりを大切にしている。電話や通信等で交流が切れないよう支援している。「あなたの夢を叶えます」を目標にし、一人一人行ってみたい所、してみたい事、逢いたい人等を聞き、それが叶えられるよう支援している。 (外部評価) 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族の協力を得ながら支援している。墓参りや住み慣れた家への帰省、孫の運動会など在宅生活での習慣を継続できている。また、事業所での生活でも地域住民や利用者同士など、新たな馴染みの関係が構築されている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人食堂、リビングで安心して座る席が決まってい、トラブルになることは少ないが、たまに勘違いでもめる事がある。その時は職員が中に入り、説明すると納得される。話題を変えたりして対応している。ティタイムの時は音楽を聞いたり、お話ししたり、良い時間を過ごすことができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後は家族の方にも推進会に参加して頂きながら、関係を大切にしている。家族の相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で中々見えてこない部分もあるが、「思いマップ」を作成することで、家族も知らなかったことが見えてきたりする。本人の思いを大切にプランに取り入れている。	
			(外部評価) 利用者の思いを「思いマップ」にまとめ、生活歴や現在の様子、未来への希望が一目でわかるよう視覚化し、承諾を得られた居室には掲示している。利用者の希望について具体的な目標や課題がわかりやすくなり、生活意欲の向上につながっている。思いを伝えることが困難な利用者は、家族等に相談したり、これまでの情報から考えて、利用者本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族面会等、職員との会話の中で情報を聞き、申し送りノートや個人ケースに記録し共有している。家族との信頼関係を大切に、何でも話し合えるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人利用者に関わる中で心身状態、精神状態を24時間シートに書きいれ、職員同士で情報を共有している。毎日バイタルチェックし健康面にも気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者及び家族、職員で一人ひとりの想いマップを作成し、そこからプランにつなげている。プランの評価も1カ月毎に行い、各ユニットで話し合っている。本人の希望に沿ったプランを作成して実施している。 (外部評価) 介護計画は利用者や家族等の希望に沿って作成され、個別にケアの手順書を作成したり、特に気になる発言や行動などは特記にまとめるなど工夫している。記録を基に毎月のケアカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式24時間シートを使って、日々の様子や精神状態を記録している。 職員間で共有しながらプランの評価も毎月行い、話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設の事業所との連携を取りながら、意見交換を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の保育園との交流、プチ美化運動（正八幡神社清掃活動）に参加、地域行事への参加をし、一人でも多く地域に出かけ、楽しい生活が送れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時かかりつけ医の希望を聞いている。今までのか かりつけ医を希望される方もおられます。基本的には 家族対応だが、家族ではなかなか分からない事がある ので、職員が同行することもあります。又、家族が行 けない場合は通院介助も行っています。協力医療機関 からの往診もあり、本人も家族も安心していただけ るよう支援しています。 (外部評価) 利用者と家族等の希望を聞き、馴染みのかかりつけ 医への継続受診ができるよう家族協力のもと支援してい る。隣接する同法人の他事業所の看護師の24時間協 力があり、緊急時等の対応ができるよう整備されてい る。協力医療機関への受診は職員が同行し、詳細な状 態の説明を行い連携している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームの看護師及び法人内の他事業所の看護師と連携 を取りながら健康管理を行っている。(24時間体制が 取れている)何かあれば主治医に相談し、早めの受診 をするようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院に面会に行ったり、家族に状態や移行を 聞いたり、看護主任さんにも確認している。 面会に行ったとき、皆で待っていることを伝えること により、安心して入院生活が送れるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 面会時等に家族・本人の想いを聞くようにしている。 こちらで最期を迎えたいと希望されている方もおられ ます。現在のところ、看取りの実施はないがいつでも 対応できるよう、研修会に参加、勉強会を開いてい る。 (外部評価) 事業所は看取りに関する指針を作成しており、書面で 家族等へ説明を行っている。現在までに看取りの経験 はないが、家族会の議題にも取り上げ、利用者や家族 の希望を把握しており、今後も看取りに関する職員教 育を進めていく予定である。	看取りの経験がないため、職員個々に重度化や終末期 について漠然と不安を抱えている現状がある。他事業 所で経験した職員や同法人他事業所で実践している職 員と意見交換をしたり、職員全員で重度化や終末期の ケアについて話し合う機会を持つ等、職員の不安軽減 を図り、チームで支援する体制づくりに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、緊急時の処置の仕方を法人内で消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、併設の事業所と一緒にやっている。ホーム内では毎月1回、避難経路や手順の確認を行っている。 推進会でも社会福祉協議会の方に来ていただいております。話を聞いたり、ビデオで勉強会を行っている。もしもの時は併設の事業所からの応援体制がとれている。 (外部評価) 年2回、併設事業所と合同で避難訓練を実施し、毎月避難経路や手順を確認するなど災害対策について高い意識を持っている。運営推進会議でも消防士を招いて勉強会を行っている。併設事業所に備蓄があり、緊急時には地域住民も含めた連絡網が整備され、心強い対策がなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ホームの理念にも掲げ、一人ひとりの尊厳を守り暖かい声かけに心がけている。 居室に入るときはノックを行い、本人の了承を取って訪室するようにしている。 個人情報やワーカースペース扱いはしている。廃棄する場合はシュレッダーにかけて注意を払っている。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳を守ることが理念にも掲げており、言葉遣いや対応には日々注意して取り組んでいる。個人情報や含まれる書類等はワーカースペースのキャビネットに保管し、外部からの問い合わせ等に即答しない等、守秘義務について理解し正しい取扱いと管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけにも決め付けるような言葉かけをせず、あくまでも本人が納得して決めていただくようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月の行事は法人内の車の調整が必要なので、空いた日に出かけるようにしている。散歩や病院の帰り、本人の希望があればAコープに買い物に寄ったりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室をほとんどの人が利用されている。外出時の服は自分で選ばれたり、職員と一緒に選んでいる。朝自分で薄化粧される方や職員がお手伝いし楽しく出かけています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は併設の施設の厨房からです。カレー・おやつ作り盛付等一緒に行っているが、年々できる人が少なくなった。地域の人から頂いた野菜と一緒に料理している。気分転換を兼ねて外食に行き、好きなものを選んでもらっている。 (外部評価) 献立は同法人他事業所の管理栄養士が立てて、同厨房にて調理されている。ユニット毎に盛り付けや配膳、おやつ作り等は行い利用者も手伝っている。食事前には口腔体操をして、歌の好きな利用者がBGMを用意し和やかなムードの中、食事を楽しんでいる。また、利用者の希望を聞きながら、外食も支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で、個々の食事量・水分量を把握している。食事量が減った人は、食事形態を変えたり、主治医の先生と家族様と相談しながら対応している。日々の観察を怠らないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後の口腔ケアを行い終わったら、歯ブラシ・コップをよく洗浄し、乾燥機にかけて感染予防に努めている。介助の必要な人は支援している。歯や入れ歯の調子が悪いときは訪問歯科を利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 誘導の必要な方はチェックしながら、排泄リズムを把握し声かけを行っている。気持ちの良い排泄がトイレ行えるよう支援している。	
			(外部評価) 適切な排泄介助を行うために、一人ひとりの細かな排泄のパターンや習慣を把握し、排泄チェック表で確認している。夜間のみおむつ使用者もいるが、トイレ誘導やポータブルトイレの利用で適切な排泄ができるよう自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。排便を促すために、おやつ作りにもさつま芋を使ったものを取り入れている。水分補給・リズム体操・歩行練習等に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態を把握しながら、行っている。一人浴槽で職員が見守り介助を行い、ゆっくりと入ってもらっている。車椅子の方は2人介助で安全面に気をかけている。	
			(外部評価) 入浴は週2回を基本とし、利用者の希望や必要に応じて支援している。一人ひとりの状態に配慮し、入浴が苦手な利用者には声かけのタイミングや誘導方法、順番を工夫したり、プライバシーを考慮しつつ、気持ち良く安全安楽に入浴してもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間はほとんどの方が良眠されている。眠れなかったり本人の希望で昼寝をしたい方は休んでもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬、飲み忘れをしないようにチェックしている。服薬時には職員同士声を出して確認、本人にも確認して慎重に行っている。薬の変更は申し送りノートを利用し周知徹底している。処方箋もいつでも見られるようにワーカー室の戸棚にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に支援マップを作成し、楽しみや好きなもの生活歴を聞きながら自分の役割を見つけ支援していきながら、楽しみや達成感を体験していただき、次へのステップにつなげていけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 今年は「あなたの夢を叶えます」を目標に、本人の行ってみたいところ、逢いたい人を聞き叶えられるよう支援を行っている。ご家族様の協力もあり、一つ一つ実現しています。 (外部評価) 日常的に併設の他事業所で行われる行事や体操への参加、移動売店での買い物、周辺の散歩等で気分転換を図るなど外出を支援している。「想いマップ」等で把握した一人ひとりの希望に沿って、家族の協力を得ながら個別支援もしている。外出により、利用者に張り合いのある生活となるよう心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお小遣いを所持し支払われている方もおられます。家族様と話し合い、こちらで預かっている方もおられます。可能な限りご自分で支払いが出来るように見守りを行っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 請求書を送る時にお手紙を入れたり年賀状が出せるよう支援しています。電話は本人希望があれば支援している。職員からも近況報告をしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意し、皆でテレビを観たり、お話ができるようにしている。玄関ホール、食堂にはちぎり絵工作等で季節感を取り入れている。西側にへちまのグリーンカーテンで日よけを行っている。また扇風機とエアコンで温度調節を行っている。	
			(外部評価) 玄関先に季節の野菜や草花を育て、日差しよけにへちまのグリーンカーテンを育てるなど、共用スペースの各所で自然に親しめる工夫がある。利用者はリビングのソファやいすなど、思い思いのお気に入りの場所でくつろいでいる。利用者が作成した季節感あふれる壁画等の工作物が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂、リビングソファもそれぞれ自分の安心できる居場所があり、テレビを観たりお話されたり家族様と職員との会話の居場所になっている。ほとんどの人が居室から出られ、食堂からリビングで過ごされている。食堂のソファに座って静かに音楽を聞かれている方もおられます。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使っていたベッド、布団、たんす、車椅子を持ち込んでいただき、家庭的に馴染みの物があることで安心して暮らしていただけるように努めている。	
			(外部評価) 居室は入り口にすだれを取り付けてプライバシーに配慮があり、丁寧に清掃されて清潔に保たれている。利用者は使い慣れた家具や家電、家族の写真等を飾り、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の出来ることをして頂き「やる気」を起こさせる声かけを行ったり、「トイレにはノックをしてから開けるように」と分かりやすく書いて貼っている。安全面に気をつけ少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム あいじゅ
所在地	松山市東方町甲814-3
自己評価作成日	平成24年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の中に住まいがあり、裏には川が流れ、春には桜が満開に咲きとてもいい環境の中にあります。午前中は少しでも自立支援に向け、リハビリ体操・唄・朗読や歩行練習等を行っています。ティタイムには好きな飲み物を飲みながら会話を楽しんでいます。今年、「あなたの夢を叶えます」を目標に掲げ、行ってみたい所、会ってみたい人等家族様に協力をお願いして、一人ひとり実現に向けて取り組んでいます。みなみ保育園との交流も3年が経ち、今では楽しみの一つになっています。その人らしさを大切に、自分に役割をもち、安心して暮らしていただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は緑豊かな環境にあり、玄関前には季節の花が咲き、吹き抜けの玄関ホールは木の香りに包まれ、温かく人を迎え入れてくれる心遣いがなされている。母体法人は多様な福祉事業を実施しており、特別養護老人ホームも隣接し協力体制が整っている。今年度の事業所目標である「あなたの夢を叶えます」のとおり、入居者一人ひとりの思いに寄り添った個別ケアを実践している。利用者はゆったりと穏やかな生活の中にも、自分の役割と目標を持って暮らしている。管理者と職員は何でも話し合える良好な関係が築かれている。職員のチャレンジ精神も旺盛で、新しい取り組みにも柔軟に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム あいじゅ

(ユニット名)

愛ユニット

記入者(管理者)

氏 名

仙波 幹雄

評価完了日

平成24年 8月 18日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員同士で話し合い、尊厳・地域交流を目標の中にいれ、少しでも地域の中に溶け込んでいけるよう支援を行っている。 (外部評価) 開設当時に地域とのつながりが困難であった経験をもとに、職員間で話し合い「利用者の尊厳と地域との交流」を目標にしている。共有スペースの目の届く位置に理念を掲示し、利用者が地域の一員として生活できるように、全職員で理念を共有し日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 文化祭・お祭り・みなみ保育園の来訪。敬老会にはみなみ保育園に行ったり、プチ美化運動に参加し、地域の正八幡神社の清掃活動も行っている。地域の方と一緒にカラオケを楽しんだ後、一緒にお誕生会に参加して頂き、話もはずみます。 (外部評価) プチ美化運動として神社の清掃を利用者と共に積み重ね、地域での役割を担っているほか、隣接する同法人の事業所行事への参加等を通して地域と交流している。近くの保育園児の来訪が毎月あり、馴染みの関係が構築され相互に楽しみとなっている。保育園から敬老会の招待を受け参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) みなみ保育園との交流の様子をお話ししたり、介護予防教室に参加して、一人でも多くの人に理解して頂くよう努めている。推進会等でお話をしたり、認知症予防についての勉強会等も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催している近況報告や取り組みのテーマ にそって話し合っている。地域包括支援センター・市 役所・民生委員・地域住民・保育園園長・在宅介護支 援センターの参加があり、意見やアドバイスが得られ サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 新たに民生委員に運営推進会議への参加を依頼し、多 方面からの参加者で構成できるよう努力している。運 営状況の報告のほか、意見や要望が積極的に出されて おり、同時に講習会を行ったり、講演の場として活用 するなど工夫がある。	参加者や内容等が分かりやすい議事録となるよう工夫 し、全職員で共有してもらいたい。今後も多方面から 参加を得て、内容のマンネリ化防止を図りながら、 サービス向上につながる取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 推進会、事業者担当者会議を活用したり、社会福祉協 議会の方をお願いして、防災について講演をしていた だいたり、指導を受け活用している。	
			(外部評価) 市担当者とは日常的に連絡を密にとっており、気軽に 相談したり情報提供して貰っている。また、運営推進 会議の機会を利用し、利用者や家族、地域との直接的 な交流のほか、防災の講演やサービス内容についての 助言や指導があり、協力関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成し、皆で取り組んでいる。 玄関入り口は日中開放している。玄関ホールは音楽を 聞きながら本を読んだり、お茶を楽しんでいただき出 来だけ出入り口は開放できるよう努めている。見守 りが不十分な時のみ閉めている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて職員一人ひとりが正し く理解し、勉強会や申し送り時には行動抑制等の弊害 についても話し合い、日々の声かけ一つにも注意して いる。玄関は日中開放され、玄関ホールと共用部間に センサーを付けて安全を確保しながら、自由な暮らし を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 推進会の時、包括支援センターの方をお願いして勉強会を実施している。 職員同士、言葉での虐待になってないか、話し合い、注意し合って、良い対応ができるよう努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に成年後見人制度を利用されている人もあるので、包括支援センターの方をお願いして勉強会を開き、それらを少しでも理解・活用できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には契約書・重要事項について十分に説明を行い理解、納得して頂いたうえで契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールには苦情箱を設置している。 苦情が寄せられた場合にはマニュアルに沿って、速やかに対応回答を行っている。法人全体としても要望苦情解決委員会を開催し、頂いた要望苦情が反映できるよう努めている。 面会時などに意見や要望を聞くようにしている。 (外部評価) 毎月の利用料の支払いなどで頻繁に来訪される家族が多く、運営推進会議や家族会など、直接思いを表せる機会がある。また、3か月ごとに家族にお便りを送り、利用者の様子や職員の異動などの情報を伝えている。事業所内外の苦情受付窓口についても、書面などで利用者と家族に説明がされている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 管理者と職員の関係は良好であり、職員会などを通じて意見や提案を気軽に言える雰囲気や機会が大切にされている。行事での車両使用など事業所で解決できない事は管理者から同法人の主任会にあげられ、協力が得られやすい体制が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行い一人一人の個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を増やしている。研修発表の場をつくり、勉強会を開いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井・久谷地区のグループホーム連絡会での勉強会に参加しているが、相互訪問の機会が持てていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階からゆつくりと話し合いができる時間を持ち、徐々に本人の思いや不安を汲み取れるように努めている。 入居後も安心して暮らせるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様との連絡を密にすることにより、家族の思い・不安・要望を聞きだし、それに沿って職員が尊厳を守りながらいい関係が出来るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、家族様の希望を聞き、法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービス選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お料理・工作・行事等について色々助言を頂いたり、一緒に行くことにより、学ぶ事も多く笑顔の絶えない暮らしが送れている。おやつ作りのレシピを家族様に教えて頂き、利用者様と一緒に作り楽しく過ごしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様と一緒に行事やお誕生会に参加できるよう案内状を出したり、面会時に伺うなど工夫している。3ヶ月に1回お手紙を送り、近況報告をしている。(共同作品展・夏祭り等)	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族とのつながりを大切にしている。電話や通信等で交流が切れないよう支援している。「あなたの夢を叶えます」を目標にし、一人一人行ってみたい所、してみたい事、逢いたい人等を聞き、それが叶えられるよう支援している。 (外部評価) 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族の協力を得ながら支援している。墓参りや住み慣れた家への帰省、孫の運動会など在宅生活での習慣を継続できている。また、事業所での生活でも地域住民や利用者同士など、新たな馴染みの関係が構築されている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人食堂、リビングで安心して座る席が決まってい、トラブルになることは少ないが、たまに勘違いでもめる事がある。その時は職員が中に入り、説明すると納得される。話題を変えたりして対応している。ティタイムの時は音楽を聞いたり、お話ししたり、良い時間を過ごすことができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後は家族の方にも推進会に参加して頂きながら、関係を大切にしている。家族の相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で中々見えてこない部分もあるが、「思いマップ」を作成することで、家族も知らなかったことが見えてきたりする。本人の思いを大切にプランに取り入れている。	
			(外部評価) 利用者の思いを「思いマップ」にまとめ、生活歴や現在の様子、未来への希望が一目でわかるよう視覚化し、承諾を得られた居室には掲示している。利用者の希望について具体的な目標や課題がわかりやすくなり、生活意欲の向上につながっている。思いを伝えることが困難な利用者は、家族等に相談したり、これまでの情報から考えて、利用者本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族面会等、職員との会話の中で情報を聞き、申し送りノートや個人ケースに記録し共有している。家族との信頼関係を大切に、何でも話し合えるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人利用者に関わる中で心身状態、精神状態を24時間シートに書きいれ、職員同士で情報を共有している。毎日バイタルチェックし健康面にも気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者及び家族、職員で一人ひとりの想いマップを作成し、そこからプランにつなげている。プランの評価も1カ月毎に行い、各ユニットで話し合っている。本人の希望に沿ったプランを作成して実施している。	
			(外部評価) 介護計画は利用者や家族等の希望に沿って作成され、個別にケアの手順書を作成したり、特に気になる発言や行動などは特記にまとめるなど工夫している。記録を基に毎月のケアカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式24時間シートを使って、日々の様子や精神状態を記録している。 職員間で共有しながらプランの評価も毎月行い、話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設の事業所との連携を取りながら、意見交換を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の保育園との交流、プチ美化運動（正八幡神社清掃活動）に参加、地域行事への参加をし、一人でも多く地域に出かけ、楽しい生活が送れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時かかりつけ医の希望を聞いている。今までのか かりつけ医を希望される方もおられます。基本的には 家族対応だが、家族ではなかなか分からない事がある ので、職員が同行することもあります。又、家族が行 けない場合は通院介助も行っています。協力医療機関 からの往診もあり、本人も家族も安心していただけ るよう支援しています。 (外部評価) 利用者と家族等の希望を聞き、馴染みのかかりつけ 医への継続受診ができるよう家族協力のもと支援してい る。隣接する同法人の他事業所の看護師の24時間協 力があり、緊急時等の対応ができるよう整備されてい る。協力医療機関への受診は職員が同行し、詳細な状 態の説明を行い連携している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームの看護師及び法人内の他事業所の看護師と連携 を取りながら健康管理を行っている。(24時間体制が 取れている)何かあれば主治医に相談し、早めの受診 をするようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院に面会に行ったり、家族に状態や移行を 聞いたり、看護主任さんにも確認している。 面会に行ったとき、皆で待っていることを伝えること により、安心して入院生活が送れるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 面会時等に家族・本人の想いを聞くようにしている。 こちらで最期を迎えたいと希望されている方もおられ ます。現在のところ、看取りの実施はないがいつでも 対応できるよう、研修会に参加、勉強会を開いてい る。 (外部評価) 事業所は看取りに関する指針を作成しており、書面で 家族等へ説明を行っている。現在までに看取りの経験 はないが、家族会の議題にも取り上げ、利用者や家族 の希望を把握しており、今後も看取りに関する職員教 育を進めていく予定である。	看取りの経験がないため、職員個々に重度化や終末期 について漠然と不安を抱えている現状がある。他事業 所で経験した職員や同法人他事業所で実践している職 員と意見交換をしたり、職員全員で重度化や終末期の ケアについて話し合う機会を持つ等、職員の不安軽減 を図り、チームで支援する体制づくりに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、緊急時の処置の仕方を法人内で消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、併設の事業所と一緒にやっている。ホーム内では毎月1回、避難経路や手順の確認を行っている。 推進会でも社会福祉協議会の方に来ていただいております話を聞いたり、ビデオで勉強会を行っている。もしもの時は併設の事業所からの応援体制がとれている。 (外部評価) 年2回、併設事業所と合同で避難訓練を実施し、毎月避難経路や手順を確認するなど災害対策について高い意識を持っている。運営推進会議でも消防士を招いて勉強会を行っている。併設事業所に備蓄があり、緊急時には地域住民も含めた連絡網が整備され、心強い対策がなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ホームの理念にも掲げ、一人ひとりの尊厳を守り暖かい声かけに心がけている。 居室に入るときはノックを行い、本人の了承を取って訪室するようにしている。 個人情報やワーカースペース扱いはしている。廃棄する場合はシュレッダーにかけて注意を払っている。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳を守るとは理念にも掲げており、言葉遣いや対応には日々注意して取り組んでいる。個人情報や含まれる書類等はワーカースペースのキャビネットに保管し、外部からの問い合わせ等に即答しない等、守秘義務について理解し正しい取扱いと管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけにも決め付けるような言葉かけをせず、あくまでも本人が納得して決めていただくようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月の行事は法人内の車の調整が必要なので、空いた日に出かけるようにしている。散歩や病院の帰り、本人の希望があればAコープに買い物に寄ったりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室をほとんどの人が利用されている。外出時の服は自分で選ばれたり、職員と一緒に選んでいる。朝自分で薄化粧される方や職員がお手伝いし楽しく出かけています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は併設の施設の厨房からです。カレー・おやつ作り盛付等一緒に行っているが、年々できる人が少なくなった。地域の人から頂いた野菜と一緒に料理している。気分転換を兼ねて外食に行き、好きなものを選んでもらっている。 (外部評価) 献立は同法人他事業所の管理栄養士が立てて、同厨房にて調理されている。ユニット毎に盛り付けや配膳、おやつ作り等は行い利用者も手伝っている。食事前には口腔体操をして、歌の好きな利用者がBGMを用意し和やかなムードの中、食事を楽しんでいる。また、利用者の希望を聞きながら、外食も支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で、個々の食事量・水分量を把握している。食事量が減った人は、食事形態を変えたり、主治医の先生と家族様と相談しながら対応している。日々の観察を怠らないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後の口腔ケアを行い終わったら、歯ブラシ・コップをよく洗浄し、乾燥機にかけて感染予防に努めている。介助の必要な人は支援している。歯や入れ歯の調子が悪いときは訪問歯科を利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 誘導の必要な方はチェックしながら、排泄リズムを把握し声かけを行っている。気持ちの良い排泄がトイレ行えるよう支援している。実際にオムツから布パンツになった方が2名います。 (外部評価) 適切な排泄介助を行うために、一人ひとりの細かな排泄のパターンや習慣を把握し、排泄チェック表で確認している。夜間のみおむつ使用者もいるが、トイレ誘導やポータブルトイレの利用で適切な排泄ができるよう自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。排便を促すために、おやつ作りにもさつま芋を使ったものを取り入れている。水分補給・リズム体操・歩行練習等に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態を把握しながら、行っている。一人浴槽で職員が見守り介助を行い、ゆっくりと入ってもらっている。車椅子の方は2人介助で安全面に気をかけている。 (外部評価) 入浴は週2回を基本とし、利用者の希望や必要に応じて支援している。一人ひとりの状態に配慮し、入浴が苦手な利用者には声かけのタイミングや誘導方法、順番を工夫したり、プライバシーを考慮しつつ、気持ち良く安全安楽に入浴してもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間はほとんどの方が良眠されている。眠れなかったり本人の希望で昼寝をしたい方は休んでもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬、飲み忘れをしないようにチェックしている。服薬時には職員同士声を出して確認、本人にも確認して慎重に行っている。薬の変更は申し送りノートを利用し周知徹底している。処方箋もいつでも見られるようにワーカー室の戸棚においている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に支援マップを作成し、楽しみや好きなもの生活歴を聞きながら自分の役割を見つけ支援していきながら、楽しみや達成感を体験していただき、次へのステップにつなげていけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 今年は「あなたの夢を叶えます」を目標に、本人の行ってみたいところ、逢いたい人を聞き叶えられるよう支援を行っている。ご家族様の協力もあり、一つ一つ実現しています。 (外部評価) 日常的に併設の他事業所で行われる行事や体操への参加、移動売店での買い物、周辺の散歩等で気分転換を図るなど外出を支援している。「想いマップ」等で把握した一人ひとりの希望に沿って、家族の協力を得ながら個別支援もしている。外出により、利用者に張り合いのある生活となるよう心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお小遣いを所持し支払われている方もおられます。家族様と話し合い、こちらで預かっている方もおられます。可能な限りご自分で支払いが出来るように見守りを行っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 請求書を送る時にお手紙を入れたり年賀状が出せるよう支援しています。電話は本人希望があれば支援している。職員からも近況報告をしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意し、皆でテレビを観たり、お話ができるようにしている。玄関ホール、食堂にはちぎり絵工作等で季節感を取り入れている。西側によしずで日よけを行っている。また扇風機とエアコンで温度調節を行っている。	
			(外部評価) 玄関先に季節の野菜や草花を育て、日差しよけにへちまのグリーンカーテンを育てるなど、共用スペースの各所で自然に親しめる工夫がある。利用者はリビングのソファやいすなど、思い思いのお気に入りの場所でくつろいでいる。利用者が作成した季節感あふれる壁画等の工作物が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂、リビングソファもそれぞれ自分の安心できる居場所があり、テレビを観たりお話されたり家族様と職員との会話の居場所になっている。ほとんどの人が居室から出られ、食堂かリビングで過ごされている。食堂のソファに座って静かに音楽を聞かれている方もおられます。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使っていたベッド、布団、たんす、車椅子を持ち込んでいただき、家庭的に馴染みの物があることで安心して暮らしていただけるように努めている。	
			(外部評価) 居室は入り口にすだれを取り付けてプライバシーに配慮があり、丁寧に清掃されて清潔に保たれている。利用者は使い慣れた家具や家電、家族の写真等を飾り、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の出来ることをして頂き「やる気」を起こさせる声かけを行ったり、「トイレにはノックをしてから開けるように」と分かりやすく書いて貼っている。安全面に気をつけ少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。	